

前年度の改善方策について実行した改善結果

1 重点目標

	令和5年度の改善策	改善結果
1	<p>学びや自他の個性、能力を伸ばす原動力となる資質・能力と、学校教育目標を実現するために必要な「生きる力」を、【自信・共感・自律】という非認知的能力の三つの柱として捉え、総合的に育成を図ることを目標とした。そのために、全教育活動において、せたがや未来・デザイン教育を推進し、探究的な学びやキャリア教育を充実させる。</p>	<p>児童アンケートの結果、「学校生活は楽しい」R4年 85.0%⇒R5年 92.0%、「学校が好き」78.3%⇒81.1%、保護者「本校の学校生活は、子どもたちにとって楽しい」86.4%⇒90.5%、「本校の教育活動に満足している。」75.2%⇒82.6%と肯定的評価が改善した。新型コロナウイルス感染症による制限の緩和により、各種行事や幼保小中との交流、異学年交流、地域や外部講師による授業、校内研究やOJTによる授業改善、何よりも職員が保護者、地域とも連携し、チーム等々力小として組織的に対応してきた成果と言える。</p>

2 学習・学習指導

	令和5年度の改善策	改善結果
1	<p>○せたがや探究的な学びの4つのサイクル ①課題を見出し把握している ②課題解決の方法を考えている ③協働して学んでいる ④学びを振り返り次につなげている。 特に学習課題（目的意識をもつ）を児童の言葉でつくる授業をめざす。 ○子どもと子どもをつなぐ指導を行い、対話的・協働的な学びを推進する。 ○校内研究を充実させ「問い」を持つことを重点とした授業を行う。 ○ユニバーサルデザイン授業を推進し、すべての子どもたちにとって学びやすい環境、授業を行う。</p>	<p>児童アンケートの結果、4つの学習指導関連項目全てで高い肯定的評価となった。特に「先生は、課題（めあて）について、自分で考えたり、友達と考えたりする時間を授業の中で取っている。」は98.1%となった。保護者「本校は、子どもが考えることや、課題を解決することを大切にした授業を行っている。」81.9%「本校は、子どもが考えたことを話し合ったり発表し合ったりする機会がある。」88.7%と改善した。教師の意識も変わり、教師が教える授業から児童自らが考え解決していく授業へと転換が図られた。</p>
2	<p>教育DX（Digital Transformation）を推進する。 ・タブレット端末の文房具のフル活用を全学年全学級で推進する。と同時にアナログの良さも見直す。 ・情報モラル、ネットリテラシーの指導を行う。</p>	<p>児童アンケート「先生は、映像やタブレットを工夫し、分かりやすい授業をしている。」95.3%と大幅に改善した。コロナ過での対策として、GIGAスクール構想が前倒しになり、タブレットが配布されて4年。教師も児童も日々の授業で当たり前のよう活用できるようになり、十分な教育効果が得</p>

		られている。また、家庭と協力し適切な使用方法を指導することができた。
--	--	------------------------------------

3 生活指導

	令和5年度の改善策	改善結果
1	「あいさつ・返事・お礼の言葉」を合い言葉に、教師自らが児童や保護者・地域の方々に挨拶をし、児童の手本となり、課題改善を図る。みしまの森学舎としての「あいさつキャンペーン」や計画委員会によるあいさつ推進に向けた取組を行う。	児童アンケート「あいさつをすすんでしている。」66.7%⇒82.5%と大幅に肯定的評価が改善した。これまでの取組の成果である。しかし、保護者や地域の方々の認識は依然高いものではないため、引き続き、教員の率先垂範、あいさつ運動に関連する取組を充実させていく。
2	学校の教育活動全体を通して、児童が人権尊重の理念を正しく理解するとともに、思いやりの心や社会生活の基本的ルールを身に付け、社会に貢献しようとする心情や態度を育て『自律』へとつなげる。	児童アンケート「私は、学校のきまりを守って、行動している。」83.4%と1.6%評価が下がった。保護者「本校は、学校での過ごし方やルールについて子どもに考えさせる指導をしている。」74.8%「本校は、教員が指導した学校での過ごし方やルールについて子どもが理解している。」79.8%と、共に昨年度と横ばいの結果となった。集団生活でルールを守ることの意義を理解できるように引き続き指導を続けていく。
3	○安全危機管理を徹底する。 ・『子どもがいるところには必ず大人がいる。大人がいないところには、子どもはいない。』を厳守で行う。 ○不登校の未然防止に向け、担任、学年、専科教員、教育相談主任、特別支援教育コーディネーター、SC、学校包括支援員養護教諭等が連携する。 ○いじめ未然防止に向け、いじめはいつでもどこでも起こり得るという考えのもと、早期の組織的な対応を行う。	児童アンケートの結果「先生たちは、ていねいに指導してくれる。」94.3%「先生たちに相談できる。」80.1%と改善したが、否定的な評価の児童もいる。保護者「学校の安全性について」の3項目は横ばいの結果となった。「本校は、丁寧に指導している。」86.8%「本校は、子どものことを相談しやすい。」77.4%と肯定的評価は微増となった。行動制限が緩和され、児童が校庭で活発に活動する場面も増えたため、救急搬送案件が発生してしまった。また、いじめや不登校に対しての取組にも課題が残る。次年度は児童の心と体の安全を第一に、児童の自律と共に全教職員で取り組んでいく。

4 学校行事

	令和5年度の改善策	改善結果
1	スクラップ&ビルドをしながらも、新型コロナウイルス感染症の制限を解除した行事や取組を行う。 キャリアパスポートを活用し、行事を通して自己の成長を自覚し、「自信」をもてるようにする。	児童、保護者アンケート結果共に、学校行事の3項全てで大きく改善した。次年度も児童が主体的に取り組み、「自信」をもてる取組になるように計画をしていく。

5 教育活動全般

	令和5年度の改善策	改善結果
1	<p>「キャリア教育」を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な事象と向き合い、課題解決を目指して情報収集や協働して学ぶ「キャリア教育」を通して社会で生きるための資質・能力の素地と『自信』を培う。 ・幼、保、小、中、11年間を通しての人作りを推進する。 ・上級生が下級生の憧れとなり、上級生を目標として取り組めるようにする。 	<p>幼保小の交流活動、小学校内での異学年交流を活発に行ったことにより、上級生が下級生の憧れとなり、上級生を目標とした「キャリア教育」の充実につながった。しかし、児童アンケート結果「自分の生き方や将来のことについて、考える授業がある。」62.8%と11.4%評価が下がった。保護者の結果も含め高い数値とは言えない。次年度は、中学校生徒との直接交流の機会を設定したり、保護者や地域の方々をゲストティーチャーとしたキャリア教育を6年生で行ったりする。</p>
2	<p>児童が学ぶことや協働すること、『共感』の意義を実感できるように、学舎や近隣の教育機関、官公署、公園等、地域と連携を図り、特色ある教育を展開し、社会課題の解決策を考え、体験し学ぶ活動を通して、「せやがや探究的な学び」の探究のサイクルによる授業実践を図る。</p>	<p>保護者アンケート結果は3項目とも大きく肯定的評価が向上した。次年度も、ビオトープを活用したSDGs（自然・環境）学習、消防署、警察署、児童館、消防署等の公共施設見学、地域防犯マップ作り、稲作体験等地域の教育力を活かした特色ある教育活動を展開していく。</p>
3	<p>学校からの情報提供について、学校だよりを始め、ホームページ、すぐーを活用して、適宜、適切に特色ある教育活動や緊急を要する情報を発信し、保護者、地域への理解と協力を得るようにする。</p>	<p>保護者アンケート結果「本校は、HPやメールなどで、保護者に情報提供している。」88.1%など、学校からの情報提供の3項目は高い評価を得た。</p> <p>「『学び舎』の区立幼・中学校について情報が提供されている。」は課題が残るので、学校だより、HP等で情報提供していく。しかし、地域の方のアンケート結果は「わからない」の数値が高くなってしまった。次年度は学校公開や行事等で来校いただけるように案内を更に多くしていく。</p>